

ジェンダー視点を踏まえた性教育の推進

インターネットや SNS などに性に関する情報があふれ、子どもたちにも深刻な影響を及ぼしていることから、**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**を踏まえ、性に関する知識を学ぶだけでなく、ジェンダー平等や多様性尊重の意識と自己決定する力を育む人権の学びを提供する**包括的な性教育**が、子どもにも大人にも求められています。

このため、今年度スタートした瀬戸内町男女共同参画推進総合計画では、『重点目標Ⅳ 生涯を通じた健康づくり』に「ジェンダー平等を基盤とした性教育の推進と性に対する正しい知識の普及」を位置付けています。

重点目標Ⅳ 生涯を通じた健康づくり

施策の方向

- 1 身体的性差とジェンダーに配慮した健康づくりの推進
- 2 身体的性差とジェンダーに配慮した健診・検診と医療保健・相談体制の整備
- 3 妊娠・出産に係る支援
- 4 **ジェンダー平等を基盤とした性教育の推進と性に対する正しい知識の普及**
- 5 男女共同参画の視点に立ったスポーツ活動の推進

施策

- (1)子どもの年齢に応じたジェンダー平等を基盤とした性教育の推進
学校や保育所における**包括的な性教育**の実施
- (2)大人の性教育の推進
保護者をはじめ大人が性教育を学ぶ機会の提供

■性をめぐる社会環境と子どもたちへの影響

子どもたちを取り巻く社会

- 大人(保護者)の性に関する知識や課題対応が不十分
- インターネットや SNS などに性に関する情報があふれ、正確でない、あるいはゆがみのある情報が存在する
- 「男らしさ、女らしさ」といったジェンダーに基づく思い込みや偏見が根強い
- 性虐待、デート DV・DV、ストーカー行為、盗撮・不同意性交等の性犯罪など様々な性に関する暴力事案が発生
- 生活に困難を抱える女性などに対する社会的支援が不十分
- 多様な性や LGBTQ の理解が不足し、社会的障壁がある

子どもたちへの影響

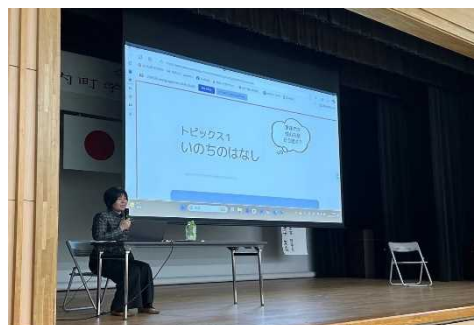
- 大人(保護者)から子どもに対する性に関する正しい理解や人権意識の共有の働きかけが不足
- 性に関する誤った、あるいは偏ったイメージや知識を身につけてしまう
- 交際相手との間の束縛や暴力を肯定してしまう
- 女の子が NO!と言えず、性的画像を送ってしまったり、暴力の被害にあったり、性感染症や予期せぬ妊娠につながることに
- SNS なども介して、性暴力の被害者にも加害者にもなる
- 予期せぬ若年妊娠・出産は教育機会の喪失や貧困、暴力の被害・加害につながりやすく、負の連鎖によって将来にわたって生活に困難を抱える
- 自己肯定感が低下し、孤独や生きづらさを抱える

👍 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)とは

リプロダクティブ・ヘルスは国際的な概念で、「人間の生殖の全ての側面において、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」、リプロダクティブ・ライツは、「全てのカップルと個人が自分たちの子どもの数、出産間隔及び出産する時期を責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができる基本的権利、並びに性に関する健康及びリプロダクティブ・ヘルスを得る権利」とされています。

👍 包括的な性教育とは

性や生殖などにとどまらず、ジェンダー平等や性の多様性、自己決定能力などを含む人権尊重を基本とした性教育のことで、性的・社会的環境について責任ある選択ができるようにすること、人権やジェンダー平等を尊重し、健康で安全かつ生産的な生活を送れるようにすることが教育の目的です。世界の性教育のスタンダードとなっています。



性教育をテーマに「瀬戸内町学校保健・安全教育大会」が開催されました。(令和7年1月)